

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200620		
法人名	社会福祉法人 むべの里		
事業所名	グループホーム際波		
所在地	宇部市大字際波672-3		
自己評価作成日	平成24年9月25日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者・職員共に全員が明るく、職員は30～60代と幅広い年齢層で介護に取り組んでいる。自治会にも加入し、地域とも連携を図るように努め、災害時などには施設を開放している。入居者の個性や特技が生かせるよう、日常会話の中から聞き出せるように努力している。運営推進会議にはご家族全員に参加の呼びかけをしているが、都合にもよるがご家族も参加されている。施設での生活を満喫していただけるように、夕食作りや好きなものを選択してもらっての昼食会、外食にも話し合いながらお店を選んでいる。近隣の高等学校との交流も月1回ではあるが、定期的に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は家族が意見や要望を言いやすい雰囲気を作り、面会簿に気軽に記入できる欄を設けたり、運営推進会議の案内を全家族に送るなどの工夫をしておられます。家族の面会が多く、居室に家族の泊り込み用のソファベットの持ち込んでいる利用者もおられます。家族が運営推進会議や事業所が開催する熱中症、口腔ケアの予防講座に参加されたり、法人のまつりや事業所の行事に利用者と一緒に参加されており、家族と職員の信頼と協力関係を深めておられます。貼り絵、ぬり絵、習字などの気分転換や楽しみごとの場面や、法人の合同文化祭で詩吟や鳴子を発表したり、隣接のデイサービス利用者と一緒に商店街の七夕まつりの飾りや案山子まつりに出す作品づくりで交流の機会や活躍の場面を作り、ボランティアの大正琴やお茶会、高校の園芸クラブの来訪での交流など、利用者が喜びや賑合いのある日々が過ごせるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	あまり共有できていない為、職員間で声かけをするようにしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所の理念をつくり、玄関に掲示している。異動してきた職員には理念の説明をしているが、理念についての話し合いの機会はなく、実践につなげるまでに至っていない。	・理念の共有と実践
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも加入し、ゴミステーションの掃除・敬老会への参加・子ども110番への協力などもしている。	自治会に加入し、ゴミステーションの掃除や敬老会への参加を通して交流している。子ども110番や防災1次避難所として協力をしており、小学生や地域の人との立ち寄りがある。隣接しているデイサービス利用者との交流があり、一緒に案山子コンテストや商店街の七夕飾りに参加したり、大正琴やお茶会のボランティアや高校の園芸クラブの来訪があり、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会専用の回覧板を作成し、一口メモも掲載し、情報を発信している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全てのことにおいて、当初は積極的に取り組んでいけたが、法人内の人事異動などのあり、なかなか落ち着かない。	評価の意義について法人職員が説明し、自己評価表を全職員に配布して、管理者が聞き取りをしてまとめている。初めて評価に取り組む職員が多く、評価についての理解や具体的な改善に取り組むまでには至っていない。	・評価の意義の理解と活用
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新年度最初の運営推進会議時にはご家族より意見を求め、参考にして年度内の会議に反映できるように努めている。	2ヵ月に1回開催し、内3回は熱中症予防、口腔ケア、交通安全の公開講座を併せて実施している。現状報告、事業計画、事故報告、外部評価結果、課題などについて話し合ったり、法人5グループの合同運営推進会議で情報交換をしてサービス向上に活かすよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際に報告している。	運営推進会議時や電話やファックスで相談したり情報交換をしている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法律内容はあまり理解できていないが、身体拘束をしないようにし、日中の玄関等の施錠も一切していない。	職員は身体拘束について理解して、身体拘束しないケアに取り組んでいる。玄関には施錠せず、外出したい様子の利用者とは一緒に出かけたり、散歩の機会を作っている。スピーチロックがないように心がけ、気になることがあるときは管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今後、学習機会を設ける予定。防止については今後も努めていく。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、学習する機会を設けたが、職員の入れ替わりもあり、今後、再度、学習機会を設けたいと思う。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ご家族やご本人と話をし不安や疑問点を解決して頂けるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会簿に意見を書いて頂ける欄を作ったり、介護相談員にも来園して頂き、意見を言ってもらいやすい環境に出来るようにしている。	相談、苦情受け付け体制を明示し、苦情処理手続きを定め、契約時に周知している。運営推進会議時や面会時に意見を聞く他、面会簿に意見、要望欄を設けている。事業所便りを送付するときにも意見、要望の提出の依頼をしている。介護相談員の来訪についても説明し、意見や要望を管理者や外部者へ表せる機会を設け、反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度、担当職員に意見をお伝えしたり話をするようにしている。	月1回の職員会議の時に意見を聞く他、定期的に管理者と職員が話し合うなど、意見や提案を聞く機会を設けている。行事の企画や服薬管理についての意見を反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内より講師をしてもらったり、会議内で職場環境を整える為にどのように取り組んでいくかを話し合ったりしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外での研修にはあまり参加する機会がないため、会議内で今、勉強すべき事などを中心に学習する機会を設けるようにしている。	外部研修の情報の提供をしているが、参加の機会はなく、法人の研修も参加していない。内部研修は管理者が中心となって資料を基に勉強会をしている。新人職員は先輩職員から指導を受けて介護技術や知識を学び、職員同士が働きながら学べるように支援している。	・外部研修への参加の工夫 ・内部研修の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入し、勉強会や懇親会などに参加するようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されてからの1ヶ月は特に注意して話をしたり、ご家族にも面会の機会を多めにしてもらっているようにしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や入居時などに質問を受けるようにし、不安のないように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、ご家族に相談し導入できるように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何でも話してもらえような関係作りができるよう、入居者・職員共に構築するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のご協力の下、外出や外泊なども積極的に取り組み、住んでおられた自宅のご近所の方にも遠慮なく面会してもらえるように声かけをしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なかなかご本人のご希望に沿った場所などには行けないが、関係が途切れないように外出できるように検討し、馴染みの関係が崩れないようにしていきたい。	家族や親戚、友人の来訪や電話の支援をしている。受診やドライブを兼ねて馴染みの場所を回ったり、家族の協力を得て、盆や正月などの外泊、墓参り、法事への参加を支援するなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係に配慮しながら、日常生活が円滑に送れるようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の現・入居者との関係を大切に、相談や支援ができるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中からの汲んでいけるように、本人との会話を大切にしている。ご本人の力が生かせるように努めている。	日常の関わりの中で思いや意向の把握に努め、ケース記録に記載し、カンファレンスで話し合いをして職員間での共有をしている。困難な場合は家族から生活歴などの情報を得て、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	急激な生活環境の変化にならないようにし、少しずつ新しい環境に馴染んでいただけるように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中で様子観察を行い、会話を通じて把握できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の状況に合わせたケアプランを作成し、ご家族にも十分にご理解していただけるように説明している。	月1回カンファレンスを開き、本人や家族、主治医、職員などの意見を反映させた介護計画を作成している。3か月に1回モニタリングをし、6か月毎に見直しをしている。要望や状況の変化に合わせて、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や連絡帳、特に重要な内容については誰もが目につけられるように大きくメモを貼り、確実に実践できるように努めている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医を作り、精神科については隔週で相談員も来園され、落ち着いた生活が送れるように努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源をあまり把握しておらず、機会もない。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの主治医を変えずに対応しているが、ご家族のご希望にも沿うようにしている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。家族の協力を得て、職員が受診支援をしている。精神科の相談員が月2回来訪している。耳鼻科の往診が年2回ある。協力医療機関が2週間に1回往診し、緊急時の協力が得られる。状態の変化や受診結果は電話で家族に連絡して情報を共有し、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師来園時には、その都度、状態等を報告し助言をもらっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が毎日、交代でお見舞いに伺い、馴染みの関係を崩すことが無いようにし、常に看護師とも情報交換等していくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で相談し、本人やご家族の意思になるべく添えるように努めている。状況に合わせた対応を心掛けている。	「重度化した場合における対応に関する指針」があり、早い段階から家族や主治医、看護師、職員らが話し合いをして方針を共有している。職員は本人や家族の意向に沿った終末期が迎えられるよう支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	救急法について何度か実施したが記録としては残していないため、今後注意する。事故等が発生しないよう出勤した際などに職員間で話をしている。	ヒヤリハット報告を書く重要性を話し合い、報告から改善策を検討して事故防止に取り組んでいる。6ヵ月に1回救命救急法とAEDの使用訓練をしているが、全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとはいえない。	・応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	何かあれば自治会長をはじめ、民生委員・地域住民が協力体制をとってくれており、連絡するようになっている。	年2回、昼夜間を想定した避難訓練、通報訓練を実施している。災害時には事業所が地域の避難場所となっており、緊急時には民生委員に連絡することを話し合っているが、地域の人と一緒に訓練の実施や連絡網の整備には至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入室する際には、一言断りをいれてから入室するようにしている。言葉かけについては、注意しているつもりではあるが、時折、馴れ合いになってしまっている。	日々のケアの中で本人の気持ちを大切に、入浴時や排泄時などは利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応については管理者が指導したり、職員間で話し合いをしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	心身状態にも配慮しながら、イエスの返事ではなく、ご本人自身の言葉で返答してもらうような問いかけを心掛けている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくペースを合わせるように努力しているが、集団生活としての生活ペースも重視しながら支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なるべく服装も選んでもらうようにはしている。散髪についても希望を尋ねながら、髪形を決めてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は各自で担当が決まっており、準備されたり、食事づくりに関しても一緒にできることをして頂いている。片づけも入居者同士が助け合いながらされている。	月6回の夕食は家族からの米や野菜の差し入れや利用者と一緒に買った食材を利用し、好みの献立で調理している。月3回程度の昼食は外食や宅配寿司、弁当注文などして変化を取り入れ、家族の協力を得ての外食や忘年会なども楽しんでいる。利用者は職員と一緒に下ごしらえや味付け、配膳、食器洗い、テーブル拭きなどを行い、職員も同じ食事をとって会話を楽しみながら食事できるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には法人の管理栄養士が作成された食事を召し上がられているが、量などについては職員で調整している。疾病に応じた対応もしている。水分もこまめに摂取してもらうように努めている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。訪問歯科による口腔ケアを利用している方もいる。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者の排泄状況に合わせてパットの種類等を変えている。声掛けの必要な入居者に関しては声掛けをしている。把握していく中で、失敗のないような環境づくりを目指している。	排泄チェック表でパターンを把握し、一人ひとりに合った声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	天気の良い日には散歩に行ったり、水分補給や全身体操などにも取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯については職員の勤務時間に合わせてもらいながら対応している。基本的には全員が毎日、入浴されている。	毎日午後2時半から5時半まで、全利用者が入浴できるよう支援している。入浴したくない人には時間をずらしたり声かけのタイミングの工夫をしている。状態や気分に合わせてシャワー浴や清拭をしたり、仲の良い人と一緒に入ったり、皮膚の状態に合わせたシャンプーを使用するなど一人ひとりに合わせた支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後には、中休みを取られるように声掛けをしている。休まれる際にも安心してもらえるような声掛けに努めている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に頂く薬の一覧表を保管し、変更等があった場合にはきちんと連絡帳に記入して漏れないようにしている。状態に変化が見られた場合には早急に医師に連絡し対応している。精神科については相談員も来園支援をしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喫煙やプランターへの水やり、買い物や近隣施設での野菜の収穫など、入居者との会話や慣れ親しんだ環境を取り入れるようにしている。	パズル、ドリル、貼り絵、ぬり絵、書写、習字、日記、箱作り、ラジオ体操、園芸クラブなどの気分転換や楽しみごとや、詩吟や鳴子などを法人合同文化祭で発表したり、洗濯物干し・たたみ、掃除、食事の支度や片付け、編み物、水やりなど活躍の場面作りの支援をして、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の方々とは出掛けられないが、ご家族とは面会に来られた際などに相談している。外出や外泊についても積極的に取り組んで頂けるように支援してる。	花見や海や山へのドライブ、商店街の七夕まつり、案山子コンテスト、芋ほり、法人他事業所の祭り、高校の文化祭などに出かけている。家族の協力を得ての夕食、外泊、墓参り、法事への参加をしている。その日の希望にそって日常的な買い物などに出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている方もいらっしゃるが、使われる事はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば対応している。遠方の家族に関しては連絡した際にご本人と代わり、お話してもらっている。年賀状やちょっとしたお手紙なども郵送の際に同封している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁画づくりなどを毎月しており、季節に応じたものを入居者や併設の通所介護利用者と共にさくせいすることもある。トイレについてはアコーデオンカーテンの箇所もある。	玄関入り口には野菜や花が植えてあり、共用の空間に飾ってある花などと共に、季節を感じることができる。窓からは明るい日差しが入り、テレビの前のソファでゆっくりと過ごすことができる。壁にはぬり絵や貼り絵、習字などの作品が飾ってあり、親しみやすい雰囲気を作っている。窓の開け閉めや日差しの調節をして居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いの居室を行き来されたり、テレビ前のソファでお話されている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご家族とも相談し、使い慣れた物をそのまま持ってきてもらうようには話している。	テレビ、ダンス、机、いす、ソファベット、衣装ケース、ドレッサー、仏壇などそれぞれが暮らしやすい物を持ち込み、ぬり絵、手作りカレンダー、人形、観葉植物などを飾って、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の意思の添えるようにしながら、『出来ないこと』ではなく、『出来ること』に目を向けながら介護に取り組むようにしている。		